

西海ブロック水産業情報

NO. 105(2019年4月～6月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>特になし。</p>	<p>○豊前海 【カキ養殖】 ・全体的に被害は昨年より少なく、成長は順調に推移。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、網袋による干潟での放流試験を実施中。 ・クルマエビの直放、ガザミの直放や中間育成→放流を実施。</p>	<p>○玄海 ・カサゴ： 5月下旬に全長50～60mmを3千尾配布済。 6月中旬から下旬に全長60～70mmを9万尾配布済。 7月中旬、8月上旬に合計1千尾配布予定。 ・クロアワビ： 平成29年度産：4月中旬に放流用約3千個(30mmサイズ)を配布済。 平成30年度産：殻長12.1～15.6mm約7万個飼育中(5月下旬)。 ・ナマコ： アオナマコ約287万個(4月計数)、アカナマコ約201万個(4～5月計数)飼育中。 アオナマコは6月上旬から約20万個配布済。 アカナマコは6月中旬から約22万個配布済。 ・マサバ： 5月下旬から種苗生産開始。 6月26日に全長67.8mmを約2万尾引渡済。全長80.7mm約14万尾飼育中。</p> <p>○有明海 ・マガキ養殖 平成31年の生産は、平成30年11月中～下旬に宮城県から購入した種カキを、4月下旬から5月中旬まで幸田干拓で抑制飼育した後、沖合の24基の筏(18経営体)に沖出し、養殖を実施している。 なお、7月中旬頃からカキ養殖場のほとんどの垂下中のカキに大量のホヤが付着したため、一部のカキ養殖業者がホヤの駆除作業を実施した。</p>		<p>・5月にカンパチのエラ虫症、ブリの連鎖球菌症Ⅱ型によるへい死が発生。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・4月中旬～5月下旬に八代海(浦底湾)で<i>Heterosigma akashiwo</i>による赤潮が発生したが、漁業被害はなかった。 ・6月下旬に八代海で<i>Kalenia mikimotoi</i> 及び <i>Cochlodinium polykrikoides</i> による赤潮が発生した。 ・イワガキ種苗生産：6月下旬から種苗生産試験中 ・スジアラ種苗生産：6月下旬から種苗生産試験中</p>	<p>ドローンによる藻場の空撮実施 6/6に県北の複数の養場調査海域において、ドローン操縦技術の習熟及び空撮時の問題等の把握を兼ね、初めてドローンによる藻場空撮を実施した。ドローン飛行時、晴天で風もなく、干潮のタイミングであったこともあり、安定した飛行とともに、比較的明瞭に藻場を確認できた。大型海藻であれば、一定程度の種別まで見分けることができた一方で、日光による水面の反射、ざらつきや海岸付近を飛翔する鳥類、主にトンビの接近等影響が見られたため、乱反射防止や鳥類対策を検討する必要があることがわかった。</p>		<p>平成30年～31年期のもずく生産量は約1万5千t(速報値)となり、対前年度比で75%程度であった。</p>